
Every law is an infraction of liberty.

天窪 雪路

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Every law is an infraction of
liberty.

【Nコード】

N8649P

【作者名】

天窪 雪路

【あらすじ】

何もない世界。何もないという世界すらも起こらない世界。

僕は思う。やがては無に帰する僕という存在は何であるのかと。

改めてものを思えば、僕は余りにも他者に依存した存在であるといえる。

僕は男であり、会社勤めをしていて、眼鏡をかけ、国産のセダンに乗っている。それに身長や体重の情報を追加したところで、それは紛れもなく僕を表すものではあるけれど、それらが僕を十分に表すことはない。そのような人間はきつと僕の他にもありふれているだろうから。

だから僕という存在は、僕という人間以外の他者によってでしか説明し得ないのだ。

それで僕は孤独を感じると自分を失った気がする。自失なんていう生易しいものじゃない。もっと致命的な喪失感を、僕は孤独の中において認めることになる。

何もない世界。何もないという事象すらも起こらない世界。それは死後の想像においても登場する。

無なる世界。死後においてはそれすらも存在しない。そしてもう、そのようにものを思うことも叶わない。

僕は思う。やがては無に帰する僕という存在は何であるのかと。

我思う、故に我あり。

とするならば、思いなければ我ここになし。

なるほど。そういうことなのだ。そしてそれゆえに、僕はどのようなカタチをしていようと、存在する限りは僕であるのだ。

僕はどのようであっても僕らしい僕であるのだ。

息苦しい。僕は僕を脱ぎ捨て、キミとあの丘の向こう側へでも行きたい。

手を取り合い、美しい夢を見ないか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8649p/>

Every law is an infraction of liberty.

2011年1月8日20時59分発行